

令和7年度 射水市社会教育委員会議

日 時 令和7年7月29日（火）

午前10時00分

場 所 市役所本庁舎401会議室

1 開 会

2 議 事

【報告事項】

（1）令和7年度コミュニティ・スクールについて

（2）令和6年度社会教育主要事業の現況と成果等について

3 その他

4 閉 会

令和 7 年度射水市コミュニティ・スクールについて

1 趣旨

学校、家庭、地域が思いを共有し、連携・協働して子どもを育てる

2 昨年度の状況

＜学校運営協議会の状況＞

○各学校で第 1 回学校運営協議会を開催した。

・学校運営協議会委員 221 名（うち小中兼務者 23 名）

＜コーディネーターの状況＞

○各学校に学校支援コーディネーターを配置した。

・学校支援コーディネーター 44 名（うち小中兼務者 1 名）

・放課後支援コーディネーター 3 名

＜学校支援ネットワークの状況＞

○各学校、地域の実態に応じて学校支援ボランティアの活動を開始した。

学校支援ボランティア登録者 18 校 369 名

＜主な活動＞

・コミスクだよりの発行（市内班回覧）

・CS研修会の実施

（学校運営協議会委員、コーディネーター、管理職各学校 4 名参加）

・学校巡回指導

（専任員が各学校を回って管理職と学校支援コーディネーターと面談）

3 今年度の状況について

＜学校運営協議会の状況＞

○各学校で第 1 回学校運営協議会を開催した。

・学校運営協議会委員 237 名（うち小中兼務者 20 名）

＜コーディネーターの状況＞

・学校支援コーディネーター 48 名

・放課後支援コーディネーター 3 名

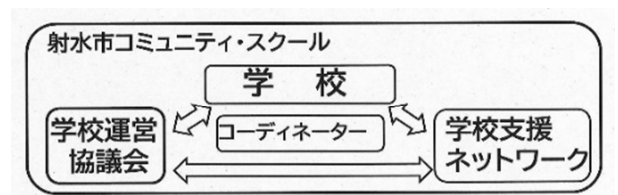
＜学校支援ネットワークの状況＞

・学校支援ボランティア登録者 18 校 465 名
（昨年 7 月 12 校 254 名）

・学校支援ボランティア活動状況

活動延べ人数 695 人

活動延べ時間 962 時間



令和7年度コミュニティ・スクール関係活動予定

<目 標>

- ・学校運営協議会の充実（熟議の実施）
- ・学校支援ネットワークの活動開始（充実）
（学校支援ボランティア連絡会議の実施）
- ・CS推進会議の実施

<活動予定>

4月4日	○第1回CS研修会（市教委） 約50名 ＜対象＞ 学校支援コーディネーター、教頭
4月22日	○射水市赴任者教員研修会（市教委） ＜対象＞ 新規採用教員、射水市への異動者
4月～6月	○第1回学校運営協議会 兼 第2回CS研修会（各学校） （第1回学校運営協議会において、規則等の説明を行う）
4月～9月	○PTA総会及びPTA役員会等での説明（必要があれば）
6月	○ 学校支援ボランティア連絡会議（各学校） ○ 第1回CS推進会議（新規） 市内のCSの推進に向けて、協議を行う ・市CS推進員（コーディネーター）4～6名、 ・市教委2名（CS専任員、生涯学習課） ・校長2名（小1、中1）
7月～ 12月	○中学校区コミュニティ・スクール情報交換会 各中学校区毎
9月	○コミスク便りNO2発行
9月～10月	○学校巡回指導（CS専任員による巡回）
10月	○先進地視察
10月	○ 第2回CS推進会議
11月20日	○第3回CS研修会（市教委） 約80名 ＜対象＞ 委員、コーディネーター、管理職
（各校）	○第2～5回学校運営協議会 ○学校支援ボランティア
2月	○コミスク便りNO3発行

令和 6 年度社会教育主要事業の現況と成果等について

事業名	取組状況	R 6 成果 (◇) / 課題 (◆)	今後の取組
放課後子ども教室推進事業 土曜学習推進事業	放課後や週末に小学校の余裕教室等やコミュニティセンターを活用し、地域の多様な経験を持つ方々の協力を得て、子どもたちと交流を図りながら、全 43 サークルの学習やスポーツ、文化活動を行っている。 (主な活動) 曳山囃子、民舞、茶道、お花、音楽、スナッグゴルフ、フラダンス、漢字、算数、英語等 ○R6 年間延べ参加者数及び開催回数 放課後子ども教室：7,409 人、470 回 土曜学習：660 人、59 回	◇地域の方々や異学年との交流の場として、学校や家庭ではできないような貴重な体験となっている。 ◇放課後子ども教室の延べ参加者数が昨年度から増加した。 ◇既存のサークルにゲストティーチャーを招くなど、活動の充実と指導者の確保に努めた。	より多くの子どもが有意義な放課後や土曜日を過ごせるように、サークル活動の内容や対象学年を毎年検討しながら、放課後活動の充実に努める。
児童健全育成事業 【放課後児童クラブ】	労働等で昼間に保護者が不在となる家庭の小学生に対し、家庭に代わる生活の場として小学校の余裕教室等を活用し開設することで、放課後及び夏休み等の学校休業日の安全・安心な居場所を確保し、県認定資格研修を修了した支援員により適切な遊びや指導を行うとともに、保護者の子育てと仕事の両立支援を行っている。 ○2 3 学級：登録児童数 939 人	◇1 3 校区の児童に遊びや生活の場を提供し、保護者の育児と仕事の両立を支援し、児童の健全育成を図った。 ◆射水市内の児童数は減少傾向にあるが利用ニーズは高く、登録児童数は増加傾向にある。	放課後児童クラブの登録児童数増加に対応できるよう、学級の新規開設の検討を行うなど、継続して児童の居場所確保に努める。
児童健全育成事業 【とやまっ子さんさん広場】	地域振興会や NPO 法人等が実施主体となり、地域の子供たちが放課後に交流できる居場所づくりとしてコミュニティセンター等を活用し開設している。 ○9 か所：登録児童数 480 人	◇地域と連携しながら開設し、引き続き児童の放課後の居場所を確保した。	放課後児童クラブで対応しきれない部分でも柔軟に対応できるよう、地域と連携し、ニーズに合わせた放課後の居場所を確保していく。

事業名	取組状況	R 6 成果 (◇) / 課題 (◆)	今後の取組
家庭教育力向上支援事業	家庭環境や子供を取り巻く環境の課題により悩みを抱える子育て中の保護者を応援するため、小中学生の児童生徒を持つ保護者や親子を対象に、富山大学地域連携推進機構と連携し「いみず親学びスクール」を開催した。 ・専門的な知識を学ぶ講義型講座（2回） ・家庭内のコミュニケーション力向上を図るための親子体験型講座（3回） ○R 6 参加者数：124 人	◇アンケート調査では、講義型の参加者の93%が子育ての知識やポイント、新しい発見を得ることができたと回答した。 ◇親子体験型では、親子で一緒に過ごす時間を確保し、コミュニケーションの大切さを再確認できた。	引き続き、発達段階に応じた子供への関わり方の学びや、他の保護者との交流・ネットワークづくりの機会を提供し、家庭教育の重要性や家族のコミュニケーション力の向上を図る。
生涯学習活動事業	身近な地域のニーズや地域の人・ものといった資源を的確に把握し、有効に活用した学習活動を展開できる市内全27地区の地域振興会に対し、生涯学習事業を委託し地域特性を生かした学習機会の提供に努めている。 ○生涯学習講座（27館） R 6 年間延べ受講者数：32,891 人 R 6 年間延べ開催回数：1,046 回	◇コミュニティセンターにおいて、生涯学習、青少年、高齢者、女性など様々な分野の学級・講座を開催し、地域の特色を生かした生涯学習活動の促進につなげた。 ◆身近に学びの環境があることを生かし、幅広い年代の利用について検討する必要がある。	各地域のニーズを把握し、さらに魅力的な事業を企画できるよう、各地区生涯学習推進委員等への情報提供や研修機会の充実に努める。
二十歳のつどい事業	二十歳の門出を祝福するとともに、社会人として自ら生き抜くことへの自覚を促すよう激励した。 R 6 年度二十歳のつどい 5月4日開催 参加者数 729 人 (79.3%)	◇会場後方に保護者席を確保し、家族で門出を祝えるよう、2部制での開催とした。	天候に左右されず、多くの方が参加できるよう努めながら事業を継続していく。 5月4日の開催日と1部・2部の地区割を固定し、参加者の予定を立てやすくする。

事業名	取組状況	R 6 成果 (◇) / 課題 (◆)	今後の取組
文化財保存事業	・文化財の適切な保存継承を図るため、県・市指定文化財の維持管理や保存修理事業に取り組んだ。 ・恒久的な保存のため、重要文化財「石黒信由関係資料」の保存修理に取り組んだ。 ・文化財等建造物の被害状況調査等、能登半島地震の復旧支援に取り組んだ。 ・古文書整理のほか、地域の歴史、民俗、文化等に関する調査を行った。 ・文化財の普及啓発を図るため、解説版の設置やリーフレットを刊行した。 ・文化財の防火・防災意識の高揚を図るため、防火査察や消防訓練を実施した。	◇国・県指定文化財の維持管理 5 件、県指定天然記念物保存修理 1 件、市指定文化財曳山車修理 2 件に助成を行い、文化財の保存と文化財保護意識の高揚を図ることができた。 ◇「石黒信由関係資料」保存修理事業に助成を行い、文書記録類 25 点、地図類 29 点の保存修理が完了した。 ◇文化財防災センターの支援を受け、建造物の被害状況調査を進めた。また、被災した県・市指定文化財 4 点の修理へ助成を行った。 ◇文化財防火デーの取組として、文化財保管施設等の防火指導を 9 か所、消防訓練を 2 か所で実施した。 ◇国登録有形文化財の解説板設置及び市指定無形民俗文化財のリーフレットを刊行し、文化財の普及啓発を図った。 ◆地域の人口減少に伴い、文化財保護の担い手の確保や防火・防災体制の維持等が課題となっている。	・文化財を適切に次代へ継承するため、各種文化財の調査・研究及び文化財の維持管理や修理等への助成等、文化財所有者等への支援に努める。 ・文化財の情報を市内外へ広く発信し、文化財保護意識の醸成を図るため、刊行物の発刊や現地への解説板設置、文化財情報等のデジタル化を推進する。 ・文化財保存継承に対する市民の理解と協力を得るため、保存とのバランスを図りながら、個性豊かな文化資源や伝統文化の一層の活用を推進する。
国重要無形民俗文化財「放生津八幡宮祭の曳山・築山行事」保存活用事業	・文化財保護団体が行う保存活用計画の作成を支援するとともに、用具等修理事業の計画作成を進めた。	◇保存活用計画の完成により、行事の関連団体を含め、地域全体で保存活用を図る意識の共有につながった。 ◆担い手が減少するなかで行事を保存継承するためには、文化財保護団体だけでは限界があり、地域社会全体で保存継承を図る体制の整備が必要である。	・文化財保存活用計画の認定を目指すとともに、文化財保護団体の主体的な保存活用の取組と保存継承に対する市民の理解と支援の強化を図る。 ・文化財保護団体や国・県関係部局等との連携を図り、用具等修理事業の着手に向けた準備を進める。

事業名	取組状況	R 6 成果 (◇) / 課題 (◆)	今後の取組
埋蔵文化財調査事業	・埋蔵文化財の保護と事業計画との調整を図るため、各種開発に先立ち、開発予定地に所在する埋蔵文化財の試掘確認調査等を実施した。 ・埋蔵文化財の公開活用推進のため、射水市埋蔵文化財センターにおいて、発掘調査成果の展示や体験教室の開催、出土品の貸し出し等を行った。	◇作道地区ほ場整備事業等、試掘調査 15 件・工事立会 17 件を実施した。 ◇『射水市内遺跡発掘調査報告 17』を刊行し、市内外関連機関への配布や「全国文化財総覧」等への掲載により、調査成果の公開と P R を図った。 ◇勾玉・鏡づくり等の体験教室（計 12 回、延参加者 105 人）を開催したほか、団体見学受け入れや出前講座など、幅広い世代の方が地域の歴史や埋蔵文化財に触れる機会を設けた。 ◆県営ほ場整備事業等の大規模調査が長期的に継続する見込みのため、調査体制を維持していく必要がある。	・引き続き、埋蔵文化財の保護と普及啓発に取り組む。 ・市民ニーズを捉え、工夫を凝らした展示や体験イベント等を企画する。 ・専門知識と技術を有する職員及び整理作業員を確保し、調査体制を維持していく。

事業名	取組状況	R 6 成果 (◇) / 課題 (◆)	今後の取組
富山マラソン開催事業	富山マラソン 2024 が多くのボランティアの協力のもと開催された。沿道では新湊曳山の展示や獅子舞などで大会を盛り上げたほか、新湊大橋を折り返し地点とするジョギングの部には、1,000 人を超えるランナーが参加した。	◇新湊大橋から望む美しい富山湾や立山連峰の雄大な眺望など、本市ベイエリアの魅力を P R することができた。	引き続き、富山マラソン（ジョギングの部）を開催する。
スポーツ強化育成事業	国際大会や全国大会に出場する選手・監督への激励金並びに成績優秀者への褒賞金を交付した。	◇市スポーツ大会出場激励金交付件数 団体：5 団体、個人：400 人 ◇褒賞金交付件数 個人：1 人	選手が全国大会等で活躍できるよう、選手力向上につながる取組を支援する。
幼児の体力向上支援事業	市内保育園・幼稚園・こども園に指導者を派遣し、幼児に多様な運動遊びを経験させることで運動する楽しさや喜びを実感させるとともに、様々な体の動かし方の習得や体力向上を図った。	◇実施日数：延べ45日 実施施設数：15園	多様な運動遊びを経験する機会を提供することで、幼児の体力向上が図られることから今後も継続して実施する。
地域おこし協力隊（スポーツ推進コーディネーター）事業	令和5年度に着任した地域おこし協力隊（スポーツ推進コーディネーター）がハンドボールのルール等を解説しながら、アランマーレを応援するパブリックビューイングを開催した。また、幼児、小学生向けの運動教室「ムズムズトレーニング教室」を開催した。	◇パブリックビューイング実施回数2回 市民の中にアランマーレを応援しようという機運が高まった。 ◇ムズムズトレーニング教室実施回数7回 参加者数377人 教室の開催により、運動する楽しさや喜びを感じる機会の創出に繋がった。	地域おこし協力隊の企画により、市民が気軽にスポーツに参加できる機会づくりを推進することができた。今後も継続して実施する。

事業名	取組状況	R 6 成果 (◇) / 課題 (◆)	今後の取組
フットボールセンター管理運営事業	オリバースポーツフィールド射水（フットボールセンター）については、令和6年能登半島地震により、人工芝フィールド及び駐車場の隆起・陥没に加え、防球ネット支柱の傾きなどの被害があり、人工芝フィールド2面の利用を停止した。	◇利用者数 13,989 人 (R5 : 76,696 人) 人工芝フィールド2面の利用を停止したため、屋根付きフットサル場の利用に限定された。屋根付きフットサル場は、一般利用やスクールによる安定した利用があった。	令和7年4月29日の供用再開後は、大会や合宿の予約が入り、利用者数も順調に回復している。引き続きスポーツによるにぎわい創出の拠点施設として大規模なスポーツ大会の開催や合宿誘致に取り組み、地域のにぎわいや交流人口の拡大を図っていく。